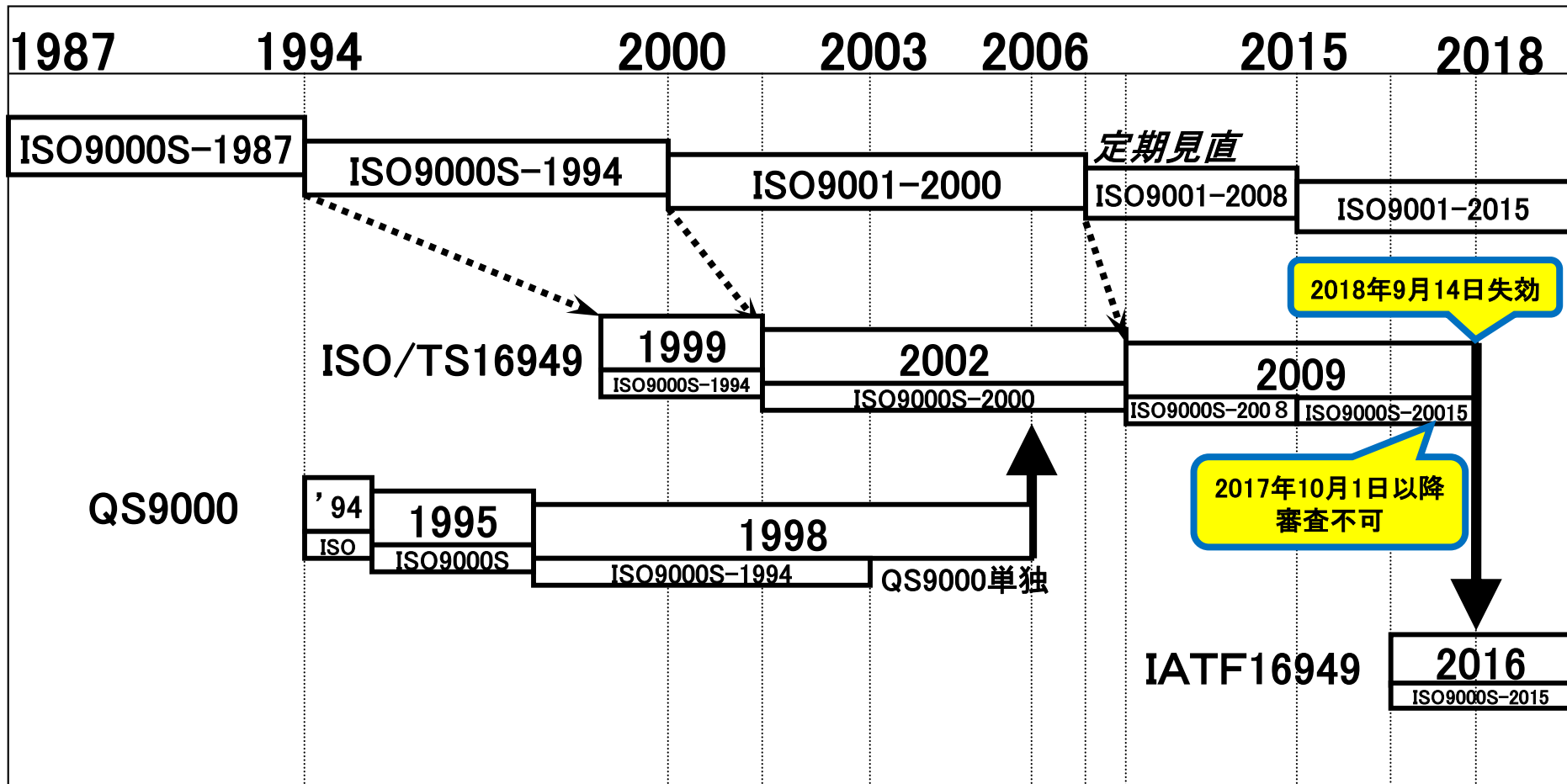


IATF16949 (ISO/TS16949) 発行・改定の歴史

1987年	ISO9000S-1987発行	VDA6(独)発行
1994年	ISO9000S-1994発行	QS9000(米)、AVSQ(伊)、EAQF(仏)発行
1996年	ISO/TC176テルアビブ総会 →各国自動車品質マネジメントシステムリクアイメントの国際統一化の要求提出	
1997年	ISO/TC176リオ総会 →自動車パイロットプロジェクト発足。国際的統一リクアイメント作成活動開始	
1999年	ISO/TS16949-1999発行 ISO/TS16949-2000に対応する改訂作業開始 (社)日本自動車工業会が改訂作業に参加	
2000年	ISO9001-2000発行	
2002年	ISO/TS16949-2002発行	
2003年	12月:ISO9000S-1994→2000更新期限(1994版消滅)	
2006年	12月:QS9000がISO/TS16949へ移行(QS9000消滅・マニュアル類は存続)	
2008年	ISO9001-2008 発行	
2015年	ISO9001-2015 発行	
2016年	IATF16949 発行	
2018年	ISO/TS16949がIATF16949へ移行(ISO/TS16949消滅)	

IATF16949の動向(図解)



ISO/TS16949⇒IATF16949規格構造・審査範囲

コアツールの要否
要の場合は

IATF16949
(*ISO/TS16949*)
リファレンスマニュアル

or

独自の要求
どちらに従うか
顧客が決定する

D(設計)FMEA
P(工程)FMEA
は必須

各社固有
要求事項

業界固有
共通要求事項

ISO9001要求事項

IATF16949
規格部分

審査の範囲

各国自動車会社のISO/TS16949採用状況

2002年11月6日(水)(財)日本規格協会主催説明会資料より

- ・米国(Big3)
 - QS9000又はISO/TS16949を要求
 - ダイムラークライスラーはISO/TS16949を推奨
- ・仏(PSA、ルノー)
 - ISO/TS16949を要求
- ・伊(フィアット)
 - 更新又は新規の認定はISO/TS16949
- ・独
 - (VW) VDA6.1を要求、ISO/TS16949でも可
 - (BMW) ISO/TS16949への適合を要求
- ・日本(日産)
 - ISO/TS16949への適合を要求
 - 但しQS9000、VDA6.1、EAQF、AVSQでも可
 - (トヨタ、ホンダ他)現状では要求は不明、各社の経営判断による

注:「ISO/TS16949への適合を要求」とは、適合していることを顧客へ示せば良く、第3者認証は要求していない

IATF16949 (ISO/TS16949) のねらい

- ・不適合の予防に重点をおいた継続的改善

検査で除くのではなく、発生を予防しパフォーマンスを継続的に改善

- ・バラツキとムダの低減

製造工程を安定させレベルを上げ、品質と生産性を継続的に改善

- ・サプライチェーンにおける欠陥の予防

自分の企業だけでなく供給者(下請け)を含めた不適合の予防

顧客満足を確実にするために、品質要求事項へ適合すること。

品質システムを有効に活用し、経営目標を達成させる。

以上をトップダウンにて、責任を明確にして実施することである。

ISO9001に対して

主な追加要求事項としては、

- ・ビジネスプランの運用と目標管理
- ・パフォーマンスを重視したデータの活用と顧客満足の上
- ・クロスファンクショナルチーム活動による新製品開発計画
- ・生産部品承認プロセス(PPAP)活動
- ・製品開発に加えて製造プロセスの開発管理
- ・予防保全と製造ツーリングマネジメント
- ・供給者のQMS開発とISO9001の適合要求
- ・特殊特性の指定とコントロールプラン(CP)活用による製品の実現プロセスの運用
- ・計測システム解析と試験所(ラボ)要求事項
- ・先入先出の実施による在庫回転と在庫管理
- ・製造プロセス監査、及び製品監査を加えた内部監査
- ・操業パフォーマンスの継続的改善とパフォーマンス実績重視

ISO9001:何をやるかを規定
→どのようにやるかは
自分たち(企業)で決める。
IATF16949:どのようにやるか
まで踏み込んでいる

コアツール

自動車産業の品質システム要求事項“ISO/TS 16949-2009”では、いわゆる“コアツール”と呼ばれる技法があるが、この通り実施するかは顧客次第である。

技法としては、5種類

1. APQP(先行製品品質計画)
2. PPAP(生産部品承認プロセス)
3. FMEA(故障モード影響解析)
4. MSA(測定システム解析)
5. SPC(統計的工程管理)

コアツールの要否
要の場合は

IATF16949

リファレンスマニュアル

or

独自の要求

どちらに従うか

顧客が決定する